

会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 23年 11月 17日(木曜日)	開催時刻	13時 30分から 15時 00分
会議名	丸子地域協議会(平成 23年度第 8回)		
出席委員	斉藤会長、北村副会長、生田委員、池内委員、内田委員、倉沢委員、上坂委員、笹井委員、佐藤委員、清水委員、関委員、成澤委員、丸山委員、宮下委員、村松委員、山越委員【欠席】滝澤委員、中澤委員、松山委員、横山委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、宮澤センター次長兼地域振興課長、下村地域振興政策幹、松井健康福祉課長、矢島産業観光課長、小相沢建設課長、松村上下水道課長、高野丸子学校給食センター長、宮澤市民生活課長補佐、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

会議次第

1 開会(宮澤センター次長)

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

2 あいさつ(斉藤会長)

朝晩めっきり冷え込むようになりました。委員の皆さんにおかれましても、風邪など引かないように体には気をつけていただきたいと思います。

本日は、報告 1件、議題 2件をお願いしています。また、全体会終了後、専門部会の開催と、公共交通研究会ではまりんこ号に乘車していただく現地視察を予定していますので、よろしくをお願いします。

3 報告

- (1) わがまち魅力アップ応援事業に関する専門部会の検討状況について

4 議題

- (1) わがまち魅力アップ応援事業に関する専門部会からの提案事項について

議事進行者(会長)からの指示により上記 2件をまとめて生田部会長が説明、提案

【報告事項：専門部会での検討状況について】

審査基準見直しの提案について

(決定事項)

- ・条件付採択を実施する。現在の審査基準を弾力的に運用し審査基準の見直しは行わない。
- ・審査会では、まちづくりや地域活性化の為に活動していこうとする団体の活動を援助する方向で、どのような条件を付せば事業採択できるかといった視点から内容を確認する。

活動内容に関連性のある団体のネットワーク化について

(意見等)

- ・花木に関して補助した団体の横の連携(ネットワーク化)をとり、情報交換する事で事業継続などや活性化に役立てたい。
- ・点在する各団体を結びつけ、面的に連携させることで相互向上を援助したい。
- ・団体を連携させる場所の提供をしたい。補助事業終了後の各団体の現状を把握する必要があり、そのためのアンケート調査実施を全体会に提案したい。

(決定事項)

- ・地域協議会主催で交流会を開催する。タイミングやテーマなど工夫が必要だが、実施す

る方向で全体会に提案したい。

・交流会の目的は、まちづくりボランティアの楽しみややりがいの喜びを創出するきっかけにする。活性化に向けた人の輪を広げると共に、事業継続に対する意識向上を図りたい。

・交流会の開催に向け、その参加者となる補助を受けた団体へのアンケートを実施したい。補助を受けた団体へのアンケート調査の実施、団体へのフォローアップ体制について（アンケート調査実施に関する意見等）

・旧丸子町時代に補助を受けた団体からも意見を伺うアンケートを実施したい。

・アンケート内容については、本日の専門部会で詰めていきたい。

・アンケートでは、補助後の活動状況や実際に交流する事を希望するかなど確認したい。

・交流会をゆくゆくは市全体の団体に呼びかける事も視野に入れたい。

・今はまず、丸子地域の中で、面的に活動が広がるように支援していきたい。

（決定事項）

・アンケート調査の実施について、全体会で提案する。

・アンケート調査の内容等は、本日の部会で決定する。

（団体へのフォローアップに関する意見等）

・来年度の魅力アップ応援事業への応募呼びかけを実施する。

・応募の呼びかけをする団体などについても、部会の中で具体的に検討したい。

・通知先や内容など、決まったところでまた報告したい。

・呼びかけを早めに積極的にこちらから行っていきたい。

【提案事項：専門部会からの提案事項について】

1 アンケート調査の実施について

2 来年度の魅力アップ応援事業への応募の呼びかけ実施について

資料 1: 市民団体の活動状況に関するアンケート調査について（お願い）、わがまち魅力アップ応援事業の御案内

主な質疑・意見の内容

（会長）部会長から提案があったアンケート調査の実施と魅力アップ応援事業の推進に関する事業案内の発送についての御意見をお聞きしたい。

（委員）報告事項の補足になるが、審査基準見直しについては、過去の丸子地域協議会としてやってきた選考方法と大幅に内容が変わる事となる。十分議論し、委員の一致した見解で方向性を出していただきたい。

（部会長）基本的には、活動を支援するというスタンスで、不備な所があれば改善する。支援することが大切であり、条件付を考えながら採用するという方向性で考えるものである。

（全委員）異議なし。

（委員）採点について、ゼロ点をなくしてほしい。ゼロは否定であり、申請を受け付けたという時点でゼロ点ではないと思う。地域協議会の会長会で検討いただきたい。

（会長）承知しました。

（委員）団体へのフォローアップは協議会が行うのか。

（部会長）いま現在も行われているが、申し込みがあった場合、第一段階として事務局から書類の書き方や内容に関してのアドバイスがあり、その上で受付けとなる。そこで一つフォローアップ（支援）になる。受付けた案件について、地域協議会の中で審査が行われるわけ

だが、目的が違うなどして不採択ということもあった。この部分が改正されればいいのではという条件付採択が行われた場合、一端そこを持ち帰ってもらい、どういう条件であれば採択になるということを審査会で決定してもらうことになる。一端それを持ち帰ってもらい、注意された所がきちんと改良されているかどうかを事務局が確認して採択となるのが条件付採択で、現在行われている形態。審査会において、条件がどういうものかをしっかり審議いただければ、最終的には事務局の確認で採択ということにしていいと思う。フォローアップに関しては、委員や事務局が訪れてどうこうということではできないと思う。そこで必要となってくるのが、団体ごとが自分の実践に基づき連携を取ったり、人が知り合うことにより活動の輪を広げていったり、そういった活動がしやすくなるように地域協議会がフォローできないかということ。具体的には、交流会の開催、お互いの情報交換をしやすくなりたいということ。その中で、もっとこうした方が交流しやすいなどという意見も出るかと思う。それについても、追々検討していきたいと考えているが、具体的に、こうした交流会が一つのフォローアップだと考えている。

(委員) 事務局が確認して終了ではなく、報告という形で一度協議会にかけてほしい。

(部会長) 検討の中でも出てきたが、後々の報告という形で、地域協議会の全体会でしてもらおうということで了承いただきたい。前回会議の報告時に言い忘れたことがあるので、1点付け加えたい。現状では、自治会等の5年事業のように続けて事業を行う場合、2年目以降の申請内容を協議会において審査はしていないが、事務局で確認し、その予算の使い方や方向性が大きく変わる場合には、必ず事前に協議会へ報告してもらおう事を決定した。

(2) 平成 24年度地域振興事業基金の活用事業について

- ・事務局より資料に基づき詳細説明。
- ・事業内容・事業費については、現在のところ概要(素案)であり、決定内容ではない。

資料 2: 平成 24年度 地域振興事業基金の活用事業について

主な質疑・意見の内容

(委員) 地域振興事業基金についての説明してほしい。

(センター次長) 合併前の旧丸子町時代に基金を持っており、それが現在の持ち寄り基金であり、地域のためにその基金を活用し、事業を実施していきたいというもの。現在の持ち寄り基金の金額は約 4億 2000万円である。

(委員) 持ち寄り基金について、先に食堂棟の話が出た時に、センター長から基金を使える内容として、(1) 合併前からの課題への対応、(2) 地域の固有課題への対応の 2点とお聞きした。今回の事業は、この 2点をベースにしてということでは理解してよいか。

(センター次長) 基本的には、そういうことである。

(委員) 資料 丸子公民館の使用団体の意見なども反映されているのか。

(丸子地域教育事務所長) 利用者団体からの意見や要望があり、今回の計画となっている。特に、3階の会議室のサッシは一枚のガラスで、川の音が直接入ってきて、会議内容が聞き取れないとの意見があり、二重サッシにすることで遮音や断熱を行いたいと考えている。

(委員) 駐車場の舗装は考えているか。

(教育事務所長) 将来的にはやらなければいけない課題であると考えているが、現段階では、予算的に難しい。

(委員) 若者から年配の方まで幅広い年齢層の利用者がいる中で、足下が危険だと感じることもある。できる限り早めに検討いただきたい。

(委員)資料 は、一般財源から出ないのか。区別がわからない。資料 20周年記念事業について、文化に触れる機会を主体的に作っていただくのは非常に良いことだが、例えば、記念事業に併せて腹話術の教室を企画するなど、1回見て終わりではなく、後にもつながるプランを考えていただけたらと思うが、そういう可能性はあるか。

(教育事務所長) 計画に挙げている事業は、案ということで、まだ内容詳細は詰まっていない。今後、打ち合わせをし、そうした機会が持てるかどうか要望として先方に伝えたい。

(センター長) 典型的に持ち寄り基金を使える事業は、先に委員から発言があった 2点だと考えている。事業によっては一般財源という考え方もあると思うが、事業が採択されやすいという側面から考えれば、それを利用してでもなるべく早く安全・安心なまちづくりをしたいというのが資料 である。資料 丸子公民館の改修は、前回の改修で足りなかった部分が 3階サッシの二重化である。最初の改修にあたって持ち寄り基金分を充当しており、その積み残し部分と、利用者の皆さんから色々な意見をいただく中で、もう少し手を加えたいということで、もちろん丸子地域の公民館であっても上田市の一般の方が使うこともあるのだが、持ち越しているという部分を考えながら、持ち寄り基金を使わせていただきたいと考えている。

(委員)資料 について、どのような基準で開催事業を決めているのか。「地域住民の方に感謝の意をこめて」ということだが、何か地域住民の特権はあるのか。例えば、券の販売期間が住民だけ先とか割引があるなどといったことは考えているのか。

(教育事務所長) 基準について、あらゆる分野の催しをやりたいということだが、やはり予算的な制約もある。特に、子供向けのものは 2年なり 1年に 1回くらいはやらなければいけないと考えており、今年は腹話術の公演を計画に入れた。開館当初の自主事業は 2000万円ほどあり、演歌などのあらゆる分野の公演ができたが、現在はできない状況である。チケットについては、出演料に対してチケットを割り振っていくと、とても高額な金額になってしまう。市の税金をそれに充てて、割り振り額の半分量なり 1/3の金額でチケットを売り出し、地域の皆さんに楽しんで、また勉強していただきたいという考えである。

(委員) 予算がそれほどないということで、事業に関しての住民からの具体的な要望などをリサーチするということは今のところないのか。

(教育事務所長) あらゆる情報をいただいているが、文化会館へ出された要望などは、できるだけ多い方からやっていこうという考えである。

(委員)資料 丸子地域産学官連携事業について、丸子修学館高校側から提案があったということだが、本年度の事業の産学官の地域振興という中で、ARECの話も出ている。提案いただいたからということで丸子修学館と商工会だけという形の枠組みでいくのか。まだ、素案の段階ということで、地域の協力体制の組み方などについて、もう少し幅広く議論した上で、来年に向けて取り組んでほしい。

(センター次長) 御指摘の内容もある。ただ、やはり修学館高校から前向きな話をいただいている中では、まずはスタートさせたいという想いがあり、ある程度合意が得られる商工会、修学館と色々交流もあることから商工会と修学館と市・自治センターでまずスタートさせようということ。その中から、広がりが見えてくることも確かに考えられる。少しずつ広めていくということも視野には入れているところではある。ただ、早めにスタートをかけるということは大事だと考えており、まずはそこから始めたいと思っている。

(委員)資料 枝粉碎機を入れた場合、荒廃地解消を何年くらい重点的にやる予定か。現在も消毒剤噴霧機などを自治会等に貸し出しているが、購入予定機の操作者や指導者の関

係などはどのような考えで進めていく予定か。

(産業観光課長) 現在、噴霧機を 2 台設置しており、アメシロ対策という時には各自治会に貸し出しをしている状況である。資料 の事業については、各自治会に貸し出すということの中で、遊休荒廃地解消や中山間の部分における獣害対策緩衝帯整備等、用途についてはたくさん広がるのではないかと考えている。そのなかで、緩衝帯整備については、立木を伐採し、山と住宅の間に緩衝帯を設ける事業のことで、切り捨てだけを行うので、どうしても 2 年目 3 年目になるとまたそこが原野になってくるということがあり、できれば、それを薪にすることができれば良いし、そうでない場合は、チップで粉碎して堆肥化することもできる。また、音楽村の遊歩道のようにチップとして敷きならすという利用方法もある。この頃は、各自治会へ桜の苗木を配布しており、各地域で桜の木が大きくなってきている。そうした桜の木の枝葉もこの機械で処理できる。こちらとしては、遊休荒廃地の解消に役立てたいという柱があり、自治会における立木の処理をできればいいと考えている。機械操作については、できれば扱い方を指導していただくような方をお願いしたい。脱穀のハーベスターのような機械であり、怪我等の危険があるため、指導ができる方を養成し、貸し出す際ははじめのうちは各地域の皆さんに指導するようなことを考えている。

(委員) 今後の事業基金の流れはどうなっているのか。また、プレミアム商品券については、上田商工会議所、上田市商工会、真田町商工会で検討した結果、今回はやらないという結論になったようだが、地域振興事業基金としては、上田市商工会だけでやっても問題はないのではないかと。ここに載っていないということは、24年度の方角性としてないということか。事業基金の使途の考え方が地域振興ということであるなら、今回の事業に入っても良かったのではないかと。

(センター次長) もう少し精査した上で、丸子地域自治センターとして正式に予算要求していくことになる。その後、査定等を経て、予算原案としてまとめ、議会の議決をいただき、4 月に執行となる。地域協議会の意見も参考に、精査の中でも反映していきたいと考えている。

(産業観光課長) プレミアム商品券が見送られた経緯について、上田商工会議所は、事業の中で事業化しており、商工会議所の当初事業に入っていたが、上田市商工会と真田町商工会は事業の中に入っていなかった為、今年については見送りという形になった。24年度については、3商工会が連携して事業化してく方向で連絡調整をしている。

(委員) 丸子地域だけ単独で出すという考えはないのか。

(産業観光課長) そういう話もあったが、上田市全域が一体としての調整を図ろうという計画で、昨年プレミアム商品券を発行した時は、上田は真田と、丸子は武石と一緒にということで、分けたプレミアム商品券を出した経過である。合併して 5 年経ち、全部同じ商品券でいいのではないかと議論があり、来年度は上田地域全体としてのプレミアム商品券という方向性で、現在検討している最中である。

(委員) 資料 のオート三輪イベント事業は、毎年やっていくのか。また、「地域産業への理解と市の知名度を上げる」とあるが、実際に実績は上がっているのか。ノスタルジックカーフェスティバル等のイベントは、向こうからの招聘を受けて行くのか。また、資料 についてのセンター長からの説明で理解できない部分があったので、再度説明をお願いしたい。

(センター次長) オート三輪のイベント効果について、フェスティバルに出れば、大勢の方が来場し、珍しさや懐かしさから人気はかなりある。確かに、一般の方に広く人気があるかと聞かれると困るが、やはりノスタルジックカーということで、限定はされるが好きな方は多い。そういう意味では、非常に人気がある。もちろん、フェスティバルには、是非出てほ

しいという話の中で参加しており、今後も要請や人気があるのであれば、知名度を上げる視点、地域の財産でもあるということから、できるだけ広く出していきたい。確かに、ずっと同じことを繰り返していいのかという議論もあり、見直す必要もあると思う。まだ、復活して3年目位なので、もう少し頑張りたいと思っている。

(センター長)説明として申し上げたかったのは、各事業に関して、持ち寄り基金を使ってでも早くやって、安全・安心なまちづくりをしたいということです。そういう気持ちでいるということを御理解いただきたい。

(委員)資料 市道沿線の支障木の伐採は他の地域でも地域予算を使ってやっているのかという疑問があり、一般予算でもいいのではという考えがある。資料 オート三輪について、地域振興という観点、市の知名度を上げるということが目的だが、地域産業を知らしめるということや観光面でも連携するなど、工業や観光にも力を入れてほしい。

(委員)今年度の4月の第1回地域協議会の時に、丸子地域の予算の主な施策ということで63項目について市から説明があった。総全体的に市の意向としてどんなかということが分かれば、前もって地域協議会に説明願いたいという発言もあったかと思う。今回、この部分だけを出してきた特別な意味はあるのか。また、来年の春も今年の63項目と同じような提案がされるのか。

(センター次長)地域振興事業基金については、協議会の意見をお聞きしなければいけないということもあり、こちらに出させていただいた。予算については、議会との関係もあり、流動的な中でお出しすることはなかなか難しい部分もある。できるだけ早い時期にという思いはあるが、予算を出す段階というのは調整させていただき、出せるような状況になれば考えたいと思う。もちろん、4月に出した分が全てというわけではなく、見ていただいたということ。今どうこうという明確な話ができない所はあるが、御理解いただきたい。

(会長)これらの意見を参考に、市には各事業を進めていただきたい。

5 その他

(1) 丸子地域の魅力をPRする事を目的とした専門部会の設置について

【部会設置の検討結果について報告】

(委員)前回の全体会終了後の分散会で討議した結果、専門部会は設置しないということになった。「まりんこ号」に特化した公共交通を考える研究会が部会に昇格したらどうかという結論が出た。これで部会が二つ、研究会も立ち上がっており、いくつもというのは無理ではないかということで、観光の部会は見送りということになった。

(2) 研究会における検討状況について(各会長より研究会での協議内容を報告)

【地域の産婦人科医療を考える研究会】

- ・第3回の研究会を11月14日に開催した。
- ・「丸子地域保健事業の実施状況と課題について」宮沢保健師より話を聞き、懇談を行った。
- ・特に決定した事項はない。
- ・現在は専門家の話を聞くなどして、知識を高めている段階である。

【公共交通研究会】

- ・前回の全体会終了後、研究会を専門部会に格上げし、多くの委員に参加いただいた中で協議してはどうかとの提案があった。協議会です承が得られれば、部会として進めたい。
- ・研究会は開催しなかったため、決定事項等は特にない。

- ・本日の全体会終了後、「まりんこ号」乗車による現地視察を行い、現状を把握する。
- ・現地視察後の部会では、高齢者クラブ宮下会長をオブザーバーに迎え、話を聞く。
- ・今年度内に専門部会として、ある程度の方向性を出したいと考えている。

【「まりんこ号」に絞った専門部会立ち上げについて】

(委員)他の部会と重複している委員に配慮の上で、専門部会として積極的にやっていただきたらいいと思う。

(委員)「まりんこ号」に絞った専門部会ということだが、概略や構想等があればお聞かせいただきたい。

(部会長)現時点での構想はないが、当初、三反田自治会から近くのスーパーが移転してしまい、買い物が非常に不便となった。三反田を通る「まりんこ号」は、大通りしか通っていないということで、住宅に近い所を通るルートにならないかという話が出ていた。私が公共交通研究会の委員になった折に、是非それが実現できるのだったらそれ一本だけでもいいと思っていた。最初、公共交通では色々な他の問題が出ていたが、色々やって何もできないで終わるより、今困っている方がいっぱいいる中で、何とかできればと思った。建設課でも色々と考えているようなので、それと合わせて何か提言ができればと考えている。

(会長)私も前回、公共交通研究会に出させていただき、御意見をお聞きした。部会長のお話のように、非常に幅が広い中で、「まりんこ号」の有効利用、市民のいい足になるような方向性を研究したらどうかということで、私も必要だと感じたところである。今年度はあと4ヶ月程度という中で、来年度に向けて「まりんこ号」の運行について研究していただく形の専門部会だと思う。「まりんこ号」の研究について、専門部会に持ち上げ、今年度研究し、まとめていくという方向性にしたいと思うが、異議はないか。

(全委員)異議なし。

(会長)魅力アップ事業と公共交通の両部会を兼務している委員は、どちらか一方にしていたいただき、どちらにも属していない委員は、どちらかの部会に所属していただきたい。

【各委員の意向確認のうえ、各所属委員決定】

・魅力アップ応援事業専門部会(会長)

- 生田委員 ・ 上坂委員 ・ 清水委員 ・ 関委員
- ・ 滝澤委員 ・ 成澤委員 ・ 松山委員 ・ 村松委員
- ・ 山越委員 ・ 横山委員

・公共交通専門部会

- 笹井委員 ・ 池内委員 ・ 内田委員 ・ 倉沢委員
- ・ 佐藤委員 ・ 中澤委員 ・ 丸山委員 ・ 宮下委員

(3) 次回以降の会議等日程について

- ・第9回丸子地域協議会 平成23年12月15日(木曜日)午後1時30分
丸子地域自治センター4階 講堂
- ・第10回丸子地域協議会 平成24年1月26日(木曜日)午後1時30分 (予定)

(4) その他

主な質疑の内容

(委員)地域で消火栓を使用した訓練を行ったが、その時に錆びた水が大量に出た。消防団員に確認したところ、消火栓は訓練などでは使ってはいけないと指導されているとの事であった。消火栓の維持管理についてはどの部署の管轄となるのか。

(上下水道課長) 消防課長が昨日の火災の現場検証等により欠席しているので、わかる範囲でお答えします。消火栓点検は、ほとんどの地域で消防団の皆さんが、春と秋の火災予防週間などに合わせて、水出し点検を行っている。ただ、黙って使うと水道の使用水量が急に増えたり、古い管については、鉄管の部分もあり、水道水が濁ってしまうことがあるので、事前に届けを出すというルールになっている。ぜひ点検を実施していただき、確実に使える状態で維持していただきたい。

(委員) 先日、放射能汚染関連で枯れ葉を燃やしていいかどうかという問題が出た。上田市として、まだ結果は出ていなかったと思う。丸子地域についてもどうしていくのか。大きな目で見ると、ここまで放射能がきているわけではないので、個人的には、そこまで必要なのか疑問だが、県全体としてやっていくような話だったので、そういう物質をどう取り扱っていくのか。上田市の対応が決定したら、次回の協議会時、またはそれ以降にでもいいので聞かせていただきたい。

(センター次長) 枯れ葉は放射性物質を溜めている可能性があるということで、それを焼却することにより空気中に拡散、なおかつ、灰へも濃縮が懸念される恐れがあるということで、できるだけ自粛してほしいとの話があった関係のことだと思う。確かに、県から通知が出ている以上、その方針で、自粛していく方向であるかと思う。

市としてどうするかの対応はまだ確認できていない。現在、空間放射線量は定期的に測定している。また、雨どいや側溝など集中している可能性がある場所についても測定をはじめており、問題はなかったとの報告は受けているところである。大きく心配することはないと思うが、方針等あるかについては、担当部局に確認したい。

6 閉会 15:00